

SOLAN Dream Climbers

～夢に向かって一歩ずつ～

ビオトーププロジェクトの進捗②

～コンセプトづくり～

4年生では、プロジェクトの時間に「ビオトープ作り」に取り組んでいます。これまで、専門家の志水さんとの意見交換や地道な話し合い活動で、少しずつ活動を進めてきました。涼しくなった10月からプロジェクトを再開しましたが、この1ヶ月半の進捗をお伝えします。



この前の瀬戸川の調査では、川の生き物や周辺環境を調べて記録することを通して、身近な水辺の自然環境の特徴を捉えることができました。

クラスごとに活動していたので、その次の授業冒頭では、活動報告を通じて、瀬戸川の特徴を結論づけることを行いました。子どもたちは川でもさまざまな深さや幅、流れがあること

に気がつき、特徴を捉えることができました。この日は専門家の志水さんにもご協力いただきました。



志水さんから「瀬戸川って、みんなが思っている自然らしさは感じた？」と尋ねると、何もない川だと思っていたけど、予想よりもたくさんの生き物達がいるから意外と自然だったと答える子どもが3割ほどいる一方、あまり自然らしくなかったと答える子どもも多くいました。理由を尋ねると、「ゴミが河岸に落ちていた。」「正直、生ぐさいところもあった。」「水質が悪い結果が出た。」「外来種のザリガニが2ひきもいた。」などの意見があがりました。

こうした調査結果から、話し合いは「では、私たちはどのような自然を目指したいのか」という議題をもとにコンセプトについての話し合いが始まりました。途中、専門家の志水さんに在来種を守る重要性や実際のビオトープ設計について、専門的な視点でアドバイスをいただき、子どもたちの考えを深める機会となりました。だいたいのコンセプトも決まり、①在来の生き物が快適に過ごせること／②私たちも生き物の命の大切さを学べることの2つを大切にしていこうと話し合いました。ただ、コンセプトはまさに心臓の部分ですので、言葉はしっかりと定義を抑えたいものです。そのため、実際の細かい表現はプロジェクトの時間内だけでなく、帰りの会の5分間なども活用して少しずつ進め、最後まで根気強く取り組みました。

その結果、**ビオトープのコンセプトは、「瀬戸を中心とした在来生物が快適に過ごせ、人も生き物の命の大切さを学べるビオトープ」に決まりました。**これから、計画を具体化しながら、実際に形にしていく予定です。この活動を通じて、自然環境を守る意識をさらに高めていきたいと思います。

